

令和元年6月4日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02996

研究課題名（和文）Transculturation in the Introduction of Confucian Rituals in 18th Century Japan

研究課題名（英文）Transculturation in the Introduction of Confucian Rituals in 18th Century Japan

研究代表者

Chard Robert (CHARD, Robert)

東京大学・東洋文化研究所・客員教授

研究者番号：30571492

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、18世紀日本における儒教儀礼の急速かつ広範な普及の考究を通して、幕府・諸藩政権が社会秩序を強固なものとするため、忠・孝をはじめとする徳目を民衆に内面化させる効果をねらって儒教儀礼を利用したプロセスを明らかにするものである。本研究では、為政者に忠誠を尽くす民衆を生み出すことにより秩序維持を達成しようとする諸藩の統治戦略という大きなコンテキストにおける文化伝達と道徳転換の媒介者として藩校を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、従来、思想史の立場から研究されてきた18世紀日本の儒教を、文化史の方法によって考究したことにある。本研究では、18世紀日本における儒教儀礼の導入を、中国文化の日本文化への影響という伝達パターンとしてではなく、トランスカルチュレーションの過程として解明した。本研究の社会的意義は、近世日本儒教の研究を通して、日本文化の形成、とりわけ日本的道徳の形成についての認識を更に深めたことにある。

研究成果の概要（英文）：Through investigation of the rapid and widespread dissemination of Confucian ritual in 18th-century Japan, this project elucidates the processes by which the Bakufu and domain administrations deployed Confucian ritual forms to induce their populations to internalize specific virtues (such as filial piety, and by extension loyalty) to improve social order. The research focused on analyzing domain schools, which served as vectors of cultural transmission and moral transformation within the larger context of domain government strategy to achieve order by inducing the populace to be loyal to their rulers.

研究分野：東アジア文化史

キーワード：Confucianism Ritual

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の主たる研究分野は中国研究である。当初、研究代表者の研究上の関心は、中国の宗教・儀礼・儀礼テキストにあった。その後、17世紀日本の中国人亡命知識人朱舜水の著述と、日本の同時代人・後継者の漢文テキストに反映された江戸時代の日本における儒教の受容について研究した。朱舜水と彼に関係した大名・儒者について研究を進める中で、中国儒教と日本儒教の差異が明らかになってきた。すなわち日本儒教においては、孔子廟・儒教儀礼など、可視的な儒教の諸形式が重視されることである。そこで、この問題を更に探究するため、17世紀日本における可視的な儒教の諸形式の再生産に関する一次史料を中心に、各地の文書館等が所蔵する刊行・未刊行の史料を研究してきた。その結果、近世日本の儒教儀礼の導入が、トランスカルチュレーションのモデルに非常によく適合することを発見した。例えば、宗廟の建物・儀式・衣服・葬儀用具のような可視的な財物は、人々を儒教に惹きつけるため、仏教における対応物に類似するものとして意図的に表現された。為政者は、自らが建立した孔子廟を、見た者すべてに宗教的な崇敬の感情を引き起こし、儒教的徳目を啓発するよう鼓舞する視覚的展示と捉えていた。史料はこれらの可視的な儒教の諸形式の意図的な機能を詳しく明らかに示している。

本研究では、以上の研究を踏まえて、研究課題として、Transculturation in the Introduction of Confucian Rituals in the 18th Century Japan (18世紀日本における儒教儀礼の導入にみるトランスカルチュレーション)を設定し、18世紀日本における儒教儀礼の広範な普及が、いかにして儒教的徳目を内面化した民衆の創出へと繋がっていったかを探究した。

2. 研究の目的

本研究は、18世紀日本における儒教儀礼の急速かつ広範な普及の考究を通して、幕府・諸藩政権が社会秩序を強固なものとするため、忠・孝をはじめとする儒教的徳目を民衆に内面化させる効果をねらって儒教儀礼を利用したプロセスを明らかにするものである。

本研究では、実践的なねらいを考慮していた将軍・大名により、政治権力の中核において展開されたものとしての儒教に重点がおかれる。儒教が展開された重要な場所は、藩校である。藩校は、18世紀に入って大幅に数を増やした。儒教は、この時期の藩校において必ず教授された教科であり、藩校教育において重要な位置を占めていた。藩校は、主に日本教育史研究者によって研究されてきたが、本研究は、それらと異なるアプローチを採用している。本研究では、為政者に忠誠を尽くす民衆を生み出すことにより秩序維持を達成しようとする諸藩の統治戦略という大きなコンテキストにおける文化伝達と道徳転換の媒介者として藩校を分析している。

3. 研究の方法

研究代表者は儒教を研究するにあたり、西洋の視点・方法論的アプローチを採用している。それらは研究代表者に、中国の儒教研究者と異なる儒教に対するパースペクティブをとることを可能にしており、それはまた、日本の儒教研究者のものとも異なっている。

本研究は実証的方法を特徴とする。具体的には、各地の文書館等が所蔵する18世紀日本における儒教儀礼の導入に関する一次史料を調査し、個々の基礎的な史実を掘り起こし、併せて、日中両国の儒教儀礼に関する文献を読解・分析し、諸藩の藩校で行われた儒教儀礼を政治的・社会的状況の中で捉え、18世紀日本において儒教儀礼が導入された実態を解明する方法である。

研究を進めるにあたり、以下のことに重点を置いた。

(1) 日本儒教は、従来、特定の学者・教師・思想家に焦点を当てて、主に思想史の立場から研究されてきたが、本研究では、日本儒教が本質的に文化現象であることから、文化史のアプローチを採用した。本研究は、経験・態度・価値・心性の全体性と特定の文化的コンテキストの下での現実生活の社会实践における表現を重視する文化史の立場から、18世紀日本における儒教の導入を、文書その他の史料の徹底的な調査により考究した。

(2) 本研究では、トランスカルチュレーションの概念を用いて、18世紀日本における儒教儀礼の広がりを分析した。世界に跨がる文化の相互作用についての国際的な学問は、ある文化が他の文化へ影響を与える、あるいは、ある文化が他の文化を借りるという単純な考えから方向転換しており、トランスカルチュレーションを強調するモデルを考案している。そのモデルでは、文化移転を始めるにあたり受け入れ側の行為者が積極的な役割を演じる。すなわち、受け入れ側が何を移転するか、何を移転しないかを選択し、受け入れ側の理解と必要に応じて、移転した諸形式を再構築するのである。

(3) 18世紀日本における儒教儀礼の諸形式の導入について考究する上で参考となる研究分野として儀礼研究がある。儀礼研究とは、なぜすべての社会における人間が、小は礼儀作法から、

大は国家式典までに及ぶパターンをもつ行為をこれほどまでに重要視するのかを説明しようとする社会科学と歴史学における学際的な努力である。儀礼の解釈に役立つ議論（それは人類学者（クリフォード・ギアツ、ヴィクター・ターナー）が始めたものである）として、観客への意図的な影響の点から、そして、政治権力との相互関係という点から読まれることに重点を置いた、台本に基づく演劇の実演に類似したものと考える立場もあれば、また、台本と実演の関係は固定されたものではなく、偶然の状況に基づく即興の要素を含むと考える立場もある（例えばピエール・ブルデュー）。

4. 研究成果

(1) 文化史の視点から見ると、18世紀日本における儒教儀礼の導入は、文化交流の標準的なモデルと異なっている。地理的な理由により、コロナリズム、文化における明確な物理的境界の欠如、文化の相互浸透、ハイブリディティなど文化史研究上の多くの主題とは、特に関係がない。18世紀日本では、異文化の導入と適応のプロセスは、日本人自身によって始められ、計画・管理されたものであった。

(2) 「礼」は元来、中国語の用語・概念であるが、18世紀日本の将軍・藩主による「礼」の実行は、中国人によるものと根本的に異なり、また17世紀日本で強調された可視的な「礼」の諸形式とも異なる、18世紀日本に特有の「礼」の理解を明らかにした。日本の為政者は、彼らの必要に応じて「礼」を構成したのである。この文化史的考察は、同時代において、倫理上の諸価値が文化特殊的な仕方理解されることを含意している。

(3) 18世紀半ば以降、社会全体の道徳習慣における明らかな衰退に対抗するために道徳教育を強化する目的で、藩校における儒教教育と儒教儀礼が広まった。藩校での教育は、特定の諸価値（孝、その延長線上にある忠など）を目標としたものであり、それは伝達パターンが受動的な文化変容というよりも、むしろトランスカルチュレーションの一つであることを明らかにしている。儒教儀礼の実践は、道徳教育全体にとって不可欠な部分であると見なされていた。

(4) 藩校において、儒教儀礼の諸形式は決定的な重要性をもっていた。一部の学校の配置は、孔子廟を堂々と中央に位置づけており、学校の計画・創設における藩儒の重要な役割を反映している。同時に、多くの藩校において、中国儒教の古典テキストの教育は、日本の武術（剣術・弓術）と馬術の身体的訓練とともに、軍事戦略と日本文学的技能の教育と統合されていた。一部の学校では、将軍吉宗の政策に従い、武士・家臣と同様、庶民も受け入れていた。このことは、学校を創設する最も重要な動機が、統治にあったことを明らかにしている。学校の創設は、庶民の不安と混乱（これらは道徳の崩壊から起こると考えられた）に対抗するための実践的な方法であった。トランスカルチュレーションの概念は、明らかにここに適用される。藩校に与えられた文化伝達・道徳変換の媒介者としての機能は、藩の権力者によって、地域の必要に応じて、計画・管理されたものであって、決して外部の文化の受動的な受容ではない。

(5) 藩校における儒教儀礼は、17世紀に広くに行われたように、宗教的なやり方で人々に影響をあたえる宗教的表現としての儒教儀礼の諸形式への重点から、18世紀に入って、正式な教育機関としての藩校の真正性の、より定式化された慣例的な象徴へと変化を示している。国学・洋学といった教育課程の他の要素と比べて、儒学が徐々に衰退していく時期においても、そうであった。逆説的なことであるが、孔子廟・釈奠のような儀礼形式は、この時代に、以前よりも、時に、より壮麗に、より正式なものとなっている。これは為政者が、教育プロジェクトの重要性を強調するために、相当多くの資源を投入したことによる。その教育プロジェクトは、経済の衰退と明らかな社会秩序の崩壊が、広範な危機感を引き起こした時期に、道徳の転換を果たすことをねらって行われた。17世紀におけるよりも更に、トランスカルチュレーションの現象は、これらの展開の中で明らかである。儒教儀礼の諸形式の展開が、中国において有していた重要性によるよりも、はるかに大きく同時代の日本の環境により、条件づけられた機能に奉仕したからである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

CHARD, Robert, School and Confucius Temple in Late Eighteenth-Century Japan: Background and Significance of the Founding of the Kojokan in Yonezawa Domain, 東洋文化研究所紀要、査読有、第174冊、2019、168 - 204
<http://hdl.handle.net/2261/00077044>

CHARD, Robert, The Meirinkan School Temple in Hagi Domain : Ritual Forms and their Purpose in Confucian Education in Eighteenth Century Japan、東洋文化研究所紀要、査読有、第 172 冊、2017、100 - 122
<http://hdl.handle.net/2261/00074382>

CHARD, Robert, Visual Power and Moral Influence: The Taku Confucius Temple and its Chinese Counterparts、東洋文化研究所紀要、査読有、第 170 冊、2016、422 - 450
<http://hdl.handle.net/2261/72185>

[学会発表](計 6 件)

CHARD, Robert, 'Ritual Studies' as a Field of Study in Early China, and its East Asian Aftermath、Conference: East Asian Interactions、2019

CHARD, Robert, Temples and Schools: Functions of Confucian Ritual Forms in Eighteenth-Century Japan、礼学国際学術研究会、2018

CHARD, Robert, Implementation of Confucian Canonical Ritual in 18th-Century Japan: Confucius Temples in Taku and Hagi、単周堯教授七秩華誕国際学術研究会、2017

CHARD, Robert, 'Classics' in China and the West: What Do They Have to Learn from Each Other?、古典学国際研究会、2017

CHARD, Robert, Patterns in the Global Transmission and Reception of Chinese Culture、北京論壇、2017

CHARD, Robert, A Third-century Poetic Celebration of the Sacrifice to Confucius: Pan Ni's 潘尼 (c. 250-c. 311) 'Hymn to the Shidian 釋奠頌'、Conference: East Asian Interactions、2017

6 . 研究組織